

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1490200134
法人名	株式会社 ケア21
事業所名	グループホーム たのしい家 神奈川三枚町
訪問調査日	令和5年12月21日
評価確定日	令和6年1月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490200134	事業の開始年月日	平成22年4月1日	
		指定年月日	平成22年3月31日	
法人名	株式会社 ケア21			
事業所名	グループホーム たのしい家 神奈川三枚町			
所在地	(221-0862) 横浜市神奈川区三枚町516-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和5年12月11日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○理念やケアの方向性を職員全体で共有し、支援していくように努めている。「人間性の尊重」「尊厳の保持」「利用者本位」「個別ケアの推進」など。 ○一人一人の利用者が「自分の時間」を大切に支援していけるように努めている。 ○入居者が安心安全に生活して頂けるように各スタッフが個別支援計画書を作ることにより、より細かい支援が出来る様にしている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和5年12月21日	評価機関 評価決定日	令和6年1月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>●この事業所は株式会社ケア21の経営です。同法人は「すべてのご利用者様やご家族様から、信頼や期待に応えられるよう質の高いサービスを提供してまいります。」をスローガンとし、福祉理念を基盤とした総合福祉事業として社会へ貢献すべく、東北・関東・東海・関西・中国・九州の幅広いエリアで、介護・医療・障がい者(児)支援・教育・保育事業など多岐にわたる事業を展開しています。介護事業では、介護付き有料老人ホーム・グループホーム・居宅介護支援・訪問介護・デイサービス・小規模多機能型居宅介護・福祉用具レンタルまで、利用者のニーズに合わせたサービスを展開しています。ここ「たのしい家神奈川三枚町」はJR・私鉄・地下鉄が乗り入れしている「横浜駅」西口からバス(8番乗り場)に乗りし「羽沢団地前」下車して徒歩6分程の、集合住宅や一戸建てが建ち並ぶ住宅地の一角にあり、世帯数の多い羽沢団地もすぐ近くにありです。 ●事業所の基本理念に「①笑顔のある家庭的な家②安心、安楽、安全の暮らしのできる家。信頼しあえる家③地域社会とともに歩む家④人としての尊厳が守れる家⑤質の高いサービスを提供する」の5項目を掲げています。この理念を具現化する為にも「親切・丁寧・真心」をモットーとし、日々の関わりの中で利用者の「したい・やりたい」を引き出せるようコミュニケーションに重点を置きながら、個別ケアを推進し「自分らしく、楽しく、生きる」家庭的な生活を送っていただけるような支援に注力しています。 ●職員の研修については、法人で作成された年間研修計画に基づき、毎月様々な(身体拘束・リスクマネジメント・メンタルヘルス・接遇マナー・看取り・認知症ケア)研修を実施しています。研修を受講した後は各自の理解習熟度を確認すべく研修報告書を作成して、管理者に提出し、不十分と判断した職員には、管理者から個別に指導を行うなどして、職員の資質向上に努めています。 ●地域との関わりについては、コロナ禍でも事業所の駐車場を提供している移動販売は継続していましたが、今年度、4年振りに地域行事の1つ(神輿)が再開され、事業所の近くまで担いで来ていただき、利用者も近くで楽しませていただきました。また、地域ケアプラザの行事も再開されており、利用者をお連れして参加するなど、徐々に地域との交流機会も持てるようになっていきます。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	たのしい家神奈川三枚町
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境、馴染みある地域の中で、生き生きと暮らせる家とパンフレットにも載せている。基本理念として5つを掲げ、地域密着型の考えを理解した援助をおこなっている。笑顔のある家を目指している。	基本理念に「①笑顔のある家庭的な家②安心、安楽、安全の暮らしのできる家。信頼しあえる家③地域社会とともに歩む家④人としての尊厳が守れる家⑤質の高いサービスを提供する」を掲げ、更衣室の扉に掲示しています。各々が出勤時に確認している他、会議でも理念に沿ったケアが実践できているか振り返りを行っています。毎年年度(期毎)に事業所としてのビジョンを作成しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、施設の行事ともに新型コロナウイルス感染防止の為、自治会及び地域ケアプラザなどの催しも中止されていることから交流は自粛していた。新型コロナウイルスは第5類になったが依然と猛威は衰えていないが、徐々に活動を始めている。その一つとして車の移動販売に来てもらっている。	コロナウィルスが5類に移行されてから、4年振りに地域行事の1つ(神輿)が再開され、事業所の近くまで担いで来ていただき、利用者も近くで楽しませていただきました。地域ケアプラザの行事も再開されており、利用者をお連れして参加しています。自治会の清掃活動には職員が参加し、地域の方と美化活動を行っています。事業所の駐車場を提供している移動販売も継続して行っています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会、地域ケアプラザの方、民生委員会の方々に参加してもらい施設の運営状況等月2回の運営推進会議で説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的な実施は、新型コロナウイルス感染防止の為自粛していたが2ヶ月に1度開催をしてサービス向上の意見やグループホームの理解をして頂いている。	自治会館を借りて2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。地域包括支援センター職員・自治会長・家族代表(2名)・地域住民代表をメンバーとして、曜日と時間を決めて開催しています。事業所の現状や活動状況報告に関する質疑応答や地域の情報をいただき、サービス向上に活かしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事故報告などを通じて連携を取っている。普段でも面会などの時、家族とのコミュニケーションを図りながら相談もしている。	横浜市の担当者とは、不明点や判断に迷う事案が生じた際に連絡を取り、相談や助言を求めながら事業所運営を行っています。研修や講習会の案内が届いた際には積極的に参加して、介護事業従事者として、把握すべき動向や情報収集に努めています。地域ケアプラザとは行事参加や運営推進会議にも出席していただいていることから、密に連携を取り合っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は毎年、社内研修、会議や運営推進会議でもスタッフ及び家族様とも共有し、身体拘束ゼロを徹底している。しかし防犯面も考慮し、玄関の電子ロックによる施錠は行っている。	身体拘束を行わないケアの指針を作成し、指針に基づき身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。本部で開催される研修や、毎月の会議の中でも身体拘束に関する勉強会を実施し、身体拘束の種類や定義について知識と理解を深めています。また、管理者を中心に身体拘束適正化委員会を設置し、日頃のケアにおいて身体拘束につながり兼ねないケースや事例などを取り上げた検討会も実施しています。定期的に自己チェックも行い、日々のケアの振り返りを行っています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しても毎年、社内研修を行っており、虐待防止の取り組みを行っている。毎月の全体会議及び2ヶ月に1回の運営推進会議でもスタッフ、家族様とも共有している。	身体拘束と同様に高齢者虐待防止法についても指針を作成しています。虐待防止委員会を設置し、日頃のケアにおいて虐待につながり兼ねないケースや事例などを取り上げた検討会を実施しています。また、本部で開催される研修や会議の中でも、虐待に関する勉強会を実施し、知識と理解を深め、虐待を行わないケアに取り組んでいます。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターとの連携を取り、研修会に参加、新型コロナウイルス感染防止対策の為に自粛していた、行政の研修に参加していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を適宜行い、疑問点があれば相談窓口もあり、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回「ケア21」での満足度アンケートも実施している。	重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について、契約時に家族等に説明しています。基本的には、家族の来訪時や電話連絡時に近況報告と併せて意見や要望を伺い、何かあれば記録に残すと共に職員に周知しています。また、法人で実施している年1回顧客満足度調査、外部評価を受審した際の家族アンケートの結果についても内容を職員に周知し、改善につなげています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書をいつでも社内にあげることができる。また毎年、職員アンケートの実施を行い、意見や提案が出来る環境になっている。	管理者は出退勤時や業務・休憩時間などにコミュニケーションを図りながら、忌憚なく意見や提案を表出できる雰囲気作りを心がけています。職員から上がった意見はミーティングの議題に上げ、討議したうえで反映させるようにしています。また、直接法人に対して業務改善提案書を提出できる体制を取っています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸制度のスタートにより、各々が向上心を持てるような評価制度になっている。	法人の経営理念「人を大事にし、人を育てる」の下、加点主義及び絶対評価による誰伸び人事制度と段位認定制度が導入されています。また、法人として求める人材像を明確にすることで、職員が意欲や向上心を持って働ける環境を整備しています。事業所としては、管理者が個々の出勤や勤務状況を把握しており、職員の健康管理の面から希望休や有給休暇の取得を促しながらシフト作成を行っています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設研修会議により、実際の現場での困難事例や、技術指導、認知ケア等、現場職員からの疑問や提案を研修として行っている。 ※新型コロナウイルス感染防止対策の為に外部研修は自粛していた各自希望の研修などがあれば相談にのっている。	法人では、職員の育成ならびに研修に注力しています。全職員を対象に実施している「入社時研修・マナー研修・コーチング研修・メンタルヘルス研修」に加え、専門性に特化した「職種別研修・役職別研修」があり、職員の経験年数や階層に応じた研修を受講し、質の向上に努めています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市の地域連絡会に参加し、交流・情報交換等を行っています。 (新型コロナウイルス感染防止対策の為に自粛していたので来年ぐらいからは検討していく)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークからのアセスメントにより行えている。そして普段のコミュニケーションなどで情報を聞き取るなどして関係性を確保している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークからのアセスメントにより行えている。普段から家族様とコミュニケーションは図るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	判定会議やカンファレンスにより行えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「居室担当制」をしており日々の業務の中で担当している入居者や担当ではない入居者とコミュニケーションを取り、より良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への面会の推奨や御本人の様子の変化等には適宜連絡を行っている。 新型コロナウイルスが5類になったことから面会は居室で人数制限させて頂いている。 入室時には手洗いうがい及びマスク着用をお願いしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚等の面会や外出は自由にして頂いているが、友人等の関係は事前に確認、または家族に電話して面会の許可を取るようになっている。 現在外出については新型コロナウイルス感染防止策の為に自粛していただいている。数時間の外出はしていただいている。	コロナウイルスが5類に移行されてから、居室での面会も再開していますが、人数制限を設けて対応しています。家族のみならず、以前お住まいになっていた近隣の方や付き合いにある方が訪ねてくることもあります。携帯電話を持ち込まれている方もおり、ご自分で電話をかけたたり、事業所の電話にかかってきた際に取り次ぐなどして、馴染みの関係を継続できるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、生活を共有できるように、希望者やできる方は一緒に家事を行う等の支援で関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様との関係を保ち、計画作成担当が経過を観察をして必要があれば相談を受けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ、本人や家族様に計画作成担当がヒアリングをして希望や意向を把握して困難な場合は本人の立場になって検討している。	入居前のインテイクで本人や家族、介護支援専門員から、生活歴・既往歴・趣味・嗜好品・事業所での暮らし方の希望などについて聴き取り、基本情報シートを作成して、職員間で情報を共有しながら支援を行っています。その後は、日々の関わりで得られた情報や気づきなどを、ケース記録や個人記録に記入するとともに申し送りでも共有しながら思いや意向に沿った支援に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からヒアリングをしてこれまでの暮らしやサービス利用の経過等について把握している。居室には写真や仏壇などお持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々利用者様の体調や気分が変化する為、職員が1人ひとりが現状を把握して、利用者様それぞれにその日に合ったケアをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を中心にモニタリングをして計画策作成担当と話し合いをしている。介護計画を作成するときは、家族と相談してフロアー会議を都度行い作成をしている。	入居時のアセスメントで得られた情報をもとに初回の介護計画を作成し、1ヶ月は重点的に本人の状態把握に努め、状態に応じて随時または3ヶ月後のアセスメントで見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。月1回のモニタリングでは、居室担当者と計画作成担当者が中心となって記録や他の職員からも意見を聴き取り、それらの情報を基に原案を作成し、ケアカンファレンスで、家族からの要望や医師の意見も踏まえ、介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの情報についてスタッフ間でミニカンファ及びフロアー会議などで共有している。必要であれば介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のケアの推進をはかりその時々生まれるニーズに対して現在のサービスに捉われない支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止対策の為に自粛してきたが地域のイベント等を把握して日々の暮らしを楽しむことができるように支援していく。 ※4年ぶりにの自治会のお神輿に参加。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様やご本人のご意向を医療機関へ情報提供している。 利用者様の日々の状態をご家族様に報告し、これからの意向を踏まえ医療とも検討している。	入居時には、原則、事業所の協力医療機関に切り替えていただくようにしています。その際、協力医療機関に切り替えることのメリットを説明し、家族に納得していただいたうえで了承を取り付けています。協力医療機関からは月2回の訪問があり、主治医の訪問前には、予め情報を提供し、当日に的確な受診が受けられるようにしています。歯科は初回無料検診後に、希望者のみ契約して、口腔ケア等を受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	前日までに個々の利用者様の健康状態を伝え、当訪問看護の際にはしっかりと申し送りを行っている。 利用者様の異変があれば医療に報告しその都度指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず病院へ情報提供を行っており、治療計画等の状況を把握している。 往診Drと病院とも連携を取って進行状況を把握し相談している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に重度化における指針を記載しており、契約時に合わせて説明を行っている。 看取りまで受け入れ、看取り時には往診Dr、訪問看護、ケアマネ、管理者ともにカンファレンスを行い、看取り計画を実施している。	重要事項説明書に重度化における指針が記載されており、契約時に説明し同意書を取り交わしています。状態の変化が見られた際には、都度、意向を確認しています。事業所では終末期ケアまで行う方針としており、過去にも看取りの実績もあります。また、職員に対してはマニュアルなどを基に、年1回看取りの研修を実施し、ターミナルや終末期ケアについての流れ確認しています。看取り後のエンゼルケアは看護師が実施しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設研修会議や社内研修により、緊急時の対応方法や応急処置について、研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回避難訓練を実施している。新型コロナウイルス感染防止対策の為に自粛はしてきたが今後は地域の協力体制をどのように築いていくことができるか検討していく。BCPマニュアルを共有している。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を利用者参加で実施しています。1回は消防署職員にも来所していただき、訓練終了後には助言や総評を得て、次の訓練に生かしています。備蓄品は食糧・水・衛生用品・懐中電灯・ラジオなどを準備しています。地域・消防・事業所間で防災協定を締結している他、BCPマニュアルも作成されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが人格や誇りを尊重して言葉かけには注意している。	入職時には個人情報の取り扱いに関する誓約書を取り交わしています。入職時研修や入職後も定期的な研修を行うとともに、申し送りやユニット会議などで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や目線を合わせて対応しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心にも配慮して対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定が行えるように、一人ひとりその人に合わせて、コミュニケーション方法を変えている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で支援している。 日々の暮らしは本人の希望を聞いて、できるだけ本人の希望にそって支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルスの感染防止をしながら外出時にはお気に入りの服選びをしたり身だしなみを整えて頂いている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食器の片づけは、一人ひとりの力を活かしている。食事の時はBGMを流して食事が楽しみにできる様に支援している。	食事の提供については湯煎の物を発注し、ご飯とみそ汁は事業所で準備しています。湯煎の食材に変更したことで、利用者に関わる時間の確保や職員の負担軽減にもなっています。食後の食器洗い・食器拭きを手伝っていただき、残存能力の維持につながっています。誕生日や行事の時には発注を止め、利用者の希望に応じた食事を提供することもあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については1日量を確保できるように支援している。 新型コロナウイルスの影響で調理済みの食材を使用しておりカロリーも計算されているので栄養不足になることは避けられ食材をたくさん使用されておりバランスが調整されている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれにあわせた口腔ケアを提供している。			
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別ケアを考えて、日中は綿の下着を着用し、夜間はリハビリパンツを使用するなどそれぞれに合わせた排泄ケアを提供している。	利用者全員の排泄表をつけ、一人一人の排泄パターンの把握に努めています。可能な限りトイレで排泄できるよう、時間やタイミングを見計らった声掛けや誘導を行っています。ユニット会議やカンファレンスで適した排泄支援方法を検討し、トイレでの排泄につなげられるよう支援しています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材調達によってカロリー計算等は計算されているが、やはり便秘がちになってしまう為に運動の工夫等を日々行っている。それでも便秘になる場合は医療と相談しながら便秘薬を採用している。			
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴が嫌いな方もいらっしゃるが本人に入浴の事を伝え、個々にそった入浴を支援している。	入浴は週に2回を基本とし、入浴前のバイタルチェックと本人の意思を確認したうえで無理強いすることなく入浴支援を行っています。衣服の着脱時には、痣や皮膚疾患などの早期発見に努めています。足腰の不便な方や重度化された方は負担をかけないためにも、シャワー浴で対応しています。季節のゆずや菖蒲湯、バスクリンも使用することもあります。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や休息を把握して気持ち良く取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携により、服薬管理を行っている。薬表によって処方された薬の管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアの推進を図り生活リハビリ、趣味、レクリエーション、イベント等など各階で行っている。 新型コロナウイルスが5類になったことで感染防止策を講じながら合同でも行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩はその都度行ってきたが、新型コロナウイルス感染防止対策の為に家族様や地域の関わりは自粛してきたが今後検討していきたい。	天気や気候の良い日には、午前・午後問わず、感染症防止策を講じたうえで散歩にお連れしています。人混みへの外出は自粛していますが、少人数でドライブにお連れしたり、家族がドライブにお連れしている方もいます。イオンの移動販売は継続して定期的に来ていただいております、地域の人との交流を兼ねて買い物を楽しんでいただいております。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はなくなったが立替金で、必要であれば買い物に出かけ使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて自ら手紙を出したり、電話したりできるように支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やフロアなどに季節に合った飾りつけによって心地よく安心して生活が出来るような配慮をしている。	共用空間は整理整頓と清掃を毎日実施し、感染症防止策として次亜塩素酸空間除菌脱臭機の設置や、採光の調整・室温・湿度の管理は職員によって行われ、快適な空間を保持できるよう努めています。利用者が入居前に描いた油絵を、壁や階段にたくさん飾られ、上品な空間が演出されています。外出時やレクでの写真も壁に貼り、話題作りとしています。窓際には生花も置かれ、無機質な空間にならないようにしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは独りになったり気の合う人と思いに過ごせる様に座席の配置に工夫をして支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地の良い空間作るために自宅で使用していたものを持参され本人が安心出来る様に工夫をしている。（写真・机・本・仏壇等）	各居室には、エアコン・クローゼット・照明が完備されています。入居時に、タンス・椅子・人形・写真・仏壇や位牌・ラジオ・テレビ・本などが持ち込まれ、個々の特色ある居室作りがされています。居室担当が部屋の整頓や足りない物の補充を行っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が安全で自立した生活が送れる様に、例えば、居室にはな札を、トイレにはトイレであることや今使用中なのか、空いているのかがわかるように札を作るなど工夫し支援をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 たのしい家神奈川三枚町

作成日 令和5年12月21日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
		新型コロナウイルスの影響で地域を含めイベントの開催が思うようにできなかった	家族様とのイベント開催	事前に予定を計画告知していく	1年
		日常生活の中で五感を通じていく。	日々健康的な生活を送る	日常的に音楽を取り入れ、外出散歩で季節を感じていただく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	たのしい家神奈川三枚町
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境、馴染みある地域の中で、生き生きと暮らせる家とパンフレットにも載せている。基本理念として5つを掲げ、地域密着型の考えを理解した援助をおこなっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、施設の行事とに地域の自治会、地域ケアプラザに参加してもらい、地域との交流を図っています。（新型コロナウイルス感染症防止の為、自治会及び地域ケアプラザなどの催しも中止されていることから交流は自粛していた。）		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会、地域ケアプラザの方、民生委員会の方々に参加してもらい施設の運営状況等説明している。 （新型コロナウイルス感染症防止対策のために自粛をしていた。）		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的な実施は、新型コロナウイルス感染症防止の為自粛していたが今年の7月より再開。サービス向上の意見やグループホームの理解をして頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事故報告などを通じて連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は毎年、社内研修を行っており、身体拘束ゼロを徹底している。しかし防犯面も考慮し、玄関の電子ロックによる施錠は行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しても毎年、社内研修を行っており、虐待防止の取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターとの連携を取り、研修会に参加、地域の他の事業所や民生委員の方々との交流をしている。 (新型コロナウイルス感染防止対策の為に自粛していた)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を適宜行い、疑問点があれば相談窓口もあり、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回の満足度アンケートをとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書をいつでも社内にあげる事ができる。また毎年、職員アンケートの実施を行い、意見や提案が出来る環境になっている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸制度のスタートにより、各々が向上心を持てるような評価制度になっている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設研修会議により、実際の現場での困難事例や、技術指導、認知ケア等、現場職員からの疑問や提案を研修として行っている。 (新型コロナウイルス感染防止対策の為に外部研修は自粛していた)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市の地域連絡会に参加し、交流・情報交換等を行っています。 (新型コロナウイルス感染防止対策の為に自粛していた)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークからのアセスメントにより行えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークからのアセスメントにより行えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	判定会議やカンファレンスにより行えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「居室担当制」をしており日々の業務の中で担当している入居者や担当ではない入居者とコミュニケーションを取り、より良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族への面会の推奨や御本人の様子の変化等には適宜連絡を行っている。 新型コロナウイルス感染防止対策の為に居室入室はご遠慮頂いているが面会は家族様の希望で、一定の距離を置きマスク着用であっていただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚等の面会や外出は自由にして頂いているが、友人等の関係は事前に確認、または家族に電話して面会の許可を取るようになっている。 外出、外食についても新型コロナウイルス感染防止対策の為に自粛していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、生活を共有できるように、希望者やできる方は一緒に家事を行う等の支援で関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様との関係を保ち、計画作成担当が経過を観察をして必要があれば相談を受けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ、本人や家族様に計画作成担当がヒアリングをして希望や意向を把握して困難な場合は本人の立場になって検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からヒアリングをしてこれまでの暮らしやサービス利用の経過等について把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が1人ひとりが現状を把握して、利用者様それぞれにその日に合ったケアをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を中心にモニタリングをして計画策作成担当と話し合いをしている。介護計画を作成するときは、家族と相談してフロアー会議を都度行い作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの情報についてスタッフ間でミニカンファ及びフロアー会議などで共有している。必要であれば介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のケアの推進をはかりその時々生まれるニーズに対して現在のサービスに捉われない支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止対策の為に自粛してきたが地域のイベント等を把握して日々の暮らしを楽しむことができるように支援していく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様やご本人のご意向を医療機関へ情報提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	前日までに個々の利用者様の健康状態を伝え、当訪問看護の際にはしっかりと申し送りを行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず病院へ情報提供を行っており、治療計画等の状況を把握している。			
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に重度化における指針を記載しており、契約時に合わせて説明を行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設研修会議や社内研修により、緊急時の対応方法や応急処置について、研修を行っている。			
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回避難訓練を実施している。新型コロナウイルス感染防止対策の為に自粛はしてきたが今後は地域の協力体制をどのように築いていくことができるか検討していく。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが人格や誇りを尊重して言葉かけには注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定が行えるように、一人ひとりその人に合わせて、コミュニケーション方法を変えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは本人の希望を聞いて、できるだけ本人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはお気に入りの服選びをしたり身だしなみを整えて頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食器の片づけは、一人ひとりの力を活かしている。食事の時はBGMを流して食事が楽しみにできる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については1日量を確保できるように支援している。栄養摂取も食材をたくさん使用してバランスを調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれにあわせた口腔ケアを提供している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は綿の下着を着用し、夜間はリハビリパンツを使用するなどそれぞれに合わせた排泄ケアを提供している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食物の工夫を日々行っているがどうしても便秘になる場合は便秘薬を採用している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人に入浴の事を伝え、個々にそった入浴を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や休息を把握して気持ち良く取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携により、服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアの推進を図り生活リハビリ、趣味、レクリエーション、イベント等など各階で行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩はその都度行ってきたが、新型コロナウイルス感染防止対策の為に家族様や地域の関わりは自粛してきたが今後検討していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はなくなったが立替金で、必要であれば買い物に出かけ使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて自ら手紙を出したり、電話したりできるように支援をしている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やフロアなどに季節に合った飾りつけによって心地よく安心して生活が出来るような配慮をしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは独りになったり気の合う人と思いに過ごせる様に座席の配置に工夫をして支援している。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地の良い空間作るために自宅で使用していたものを持参され本人が安心出来る様に工夫をしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が安全で自立した生活が送れる様に、例えば、居室にはな札を、トイレにはトイレであることや今使用中なのか、空いているのかがわかるように札を作るなど工夫し支援をしている。			

目 標 達 成 計 画

事業所 たのしい家神奈川三枚町

作成日 令和5年12月21日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
		ご自分の意見が言えないご利用者様に対する対応	発語がない為にご自身の思うところを把握し支援していく。	家族様や利用者様とのコミュニケーションを密に取りその人に合ったケアを検討していく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。